

早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌

WASEDA RILAS JOURNAL 第2号刊行にあたって

早稲田大学総合人文科学研究センター 所長 益田 朋幸

『ライラス・ジャーナル』第2号をお届けします。人文学の全体を網羅しようと設立された「人文研」（某大学に同名の有名な組織がありますが、早稲田の「人文研」です）の、英語の略称はRILAS、ライラスと発音します。ウェブ雑誌なので厚みは見えませんが、創刊号に比べてヴォリュームが増しました。号を追うごとに、質量ともに充実してゆくだらうと確信しています。

私たちを震撼させた東北大震災と原発事故から、3年半が経ちました。研究にたずさわる者は誰も、この世界で、自分の研究が果たし得る役割を問い直さざるを得ませんでした。私は個人的にこう考えます。ボランティアといった直接的行動は、もちろん大切である。日々の生活に困っている人が目の前にいるのだから。しかし、一見してすぐに世の役には立たない、人文系の研究も重要である。人間が過去に生み出した文化、過去にとった思考や行動を分析しなければ、私たちは進んでいけないから。人間の営為の尊重なくして、現在の人間を信頼することはできないから。

『ライラス・ジャーナル』は、人文研所員や早稲田大学大学院文学研究科の在學生はもちろん、同研究科を修了した方にはすべて執筆資格があります。まだ周知が十分ではないかも知れません。身近に該当者がおられたら、ぜひお伝えください。早稲田以外の研究者の方も、人文研所員の推薦を経て、執筆することが可能です。

人文系の研究であれば、分野は不問。ウェブ雑誌ですから、図・表の掲載に自由がききます。創刊号の内容は、すでに Google Scholar や CiNii に採録され、全国の研究者にアクセスができるようになっています。外国語で執筆していただければ、即刻世界に発信することになります。研究者の方は、それぞれ所属する専門学会をおもちで、学会誌に論文を寄稿することが重要な仕事になっていると思われれます。そうした学会誌と『ライラス・ジャーナル』をどうぞ使い分けてください。論文には、人文研所員の協力を得て査読制度をとっていますが、それ以外にも研究ノート、報告、書評、史料翻刻・翻訳といったあらゆる形式の文章をお待ちします。

『ライラス・ジャーナル』が育ってゆけば、実に面白い雑誌になる、と私は夢見ています。分野や内容、形式がさまざまな研究が並ぶ。悪く言えば雑然としたごった煮かも知れません。しかしそれはまた、私たちがもっとも大切にしたいと願う「多様性」の表れに違いありません。人文学に何ができるか。それは人間の営みに対する、確固たる肯定の意思の表明ではないでしょうか。